

足立租税教育推進協議会会長賞

「世界を繋ぐ税金」

足立区立 伊興中学校

三年 加藤 吉乃

「すでに遅すぎる。この地球は破壊されてしまった。」

先日、ギリシャでは、深刻な熱波により山火事が多発している。この言葉は、その状況を見たギリシャのエヴィア島北東部イステイアイアの市長が地元メディアの取材で語った一言である。ギリシャに住む人々の多くは深い悲しみの中避難し、町が一刻も早く元に戻ることを待ち望んでいる。私は、この事実を知りどうにか彼らの力になれることはないかと考えた。

日本では、ギリシャや他に山火事の影響を受けた国々に支援金を送り、復興の手伝いをしている。調べてみると、その金額はおよそ二百万円にもなったそうだ。では一体このお金はどこから出ているのだろうか。私はギリシャの山火事の事故を中心に調べてみることにした。すると、募金による支援金の外にODAという団体が私の目にとまった。ODAとは政府開発援助を指している。また、ODAが提供する資金や支援に使われているお金は経済協力費という税金によってまかなわれており、国の歳出額の内訳のうち0.5%、およそ五千百二十三億円のお金が世界のために役立てられている。私は驚いた。私たちの税金が世界のために使われているだなんて考えたこともなかったからだ。

私は、ますますODAという団体に興味を持ち、よりくわしく調べてみることにした。すると、日本も世界から支援を何度も受けていたことが分かった。例えば東日本大震災が起こった時だ。その時には、これまでに百六十三カ国もの国々が日本を支援してくれていたのである。私が特に驚いたことは、その国々の中に発展途上国からの支援もあつたということだ。日本は感謝の気持ちをしっかりと持ち、これからも支援を行っていくべきだと思った。また、経済協力費は世界が支え合い、共に成長するためにとっても重要だと感じた。

私はこれまで、「税金」と聞くとお金がとられるとマイナスなイメージばかりあつた。だが、今回調べてみて考えが変わつた。きっと私と同じようにマイナスなイメージを持っている人も少なくはないだろう。しかし、私たちが支払っている税金が何に使われているのか。どのような役に立っているのか、について知ることと税金の大切さがよく分かり、税金を「とられている」という考えになることはなくなるだろう。ODAという団体とその活動を知った今、私は税を納めることはとても誇らしいことだと感じる。そして、これからも、世界で困っている人を助けてほしいと思う。

中学生の私が払う税は、大人と比べると全然少ないだろう。しかし私は税の大切さをまわりの人に伝え、世界中の人々のために少しでも税金に理解ある社会を作りたいと思う。

税という名の小さな助け合いの参加。それにより、世界中に笑顔があふれるだろう。